



## 本会記事

### ■広報委員会だより

#### 第5回「おもしろ科学教室」(名古屋大学)での出展

広報委員会では、子どもや保護者に向けた広報活動にも力を入れており、最近、夏と冬にそれぞれ東京地区と名古屋地区で展示・実演を行ってきました。これらの活動については本誌記事でもお知らせしてまいりましたので、開催の経緯等は過去の記事[1,2]もご参照ください。今回は、名古屋大学東山キャンパスにおいて、2013年1月14日(月、成人の日)に行われました、第5回「おもしろ科学教室」における展示・実演の報告です。このイベントは、日本の次世代科学技術を担う青少年への啓発を目的とし、本学会の他、応用物理学会、電気学会、電子情報通信学会、日本赤外線学会、レーザー学会、日本アマチュア無線連盟、総務省東海総合通信局、日本弁理士会、豊田高専、名古屋大、核融合研が共同で主催したもので、本学会は初回から参加しています。当日はあいにくの荒天でしたが、講演会や工作教室など盛りだくさんの内容で、主として事前に申し込みをされた約200組の小学生のご家族で会場は賑やかな熱気につつまれました。本学会からは、ブースを設けてプラズマ・核融合に関連した展示や実演を行い、室賀健夫総務委員、坂本慶司広報委員長、以下、中村圭二、畑山明聖、北野勝久、水口直紀の各広報委員および事務局から石山さん、杉山さんが案内にあたりました。

展示内容は、例年どおり各大学、研究所にご協力いただき持ち寄ったもので、大掛かりなものとしては「超伝導磁気浮上列車」「大気圧低温プラズマジェット」、身近にプラズマに関連する技術に接することのできる「プラズマボール」「注射器型火花放電」「ダイヤモンド水カッター」の他、「3DプリンタによるJT-60SA模型」「浮上地球儀」、クイズ、パンフレット配布を行いました。詳細は過去記事[3]をご参照ください。

興奮して飛び回る子、じっと飽きることなく見ている

子、「なんで？」と質問を連発してお父さんを困らせる子、「じゃあ、こうしたらどうなるの？やってみて」とスタッフに実験提案を出してくる子、等々。今回の体験は彼らの将来に大いに影響を与えたことでしょう。実演するスタッフ達も、遠い昔の自分たちの姿を重ねながら、忙しいひとときを楽しみました。

他ブースでも、「自転車発電」(電気学会)、「無線交信」(アマ無線連盟)、「不法電波探索」(総務省通信局)、「特許に関する電子紙芝居」(弁理士会)等、様々な展示がありました。工作教室では「赤外線ファイバー通信」(赤外線学会、レーザー学会)、「ふしぎな鏡」(応物学会)、「電子万華鏡」(弁理士会)、「電波でおにごっこ」(アマ無線連盟)の4グループに分かれて子ども達が挑戦しました。そして、大会議室では、名古屋大学減災連携研究センターの護雅史氏による地震災害に関する講演がありました。本学会は工作教室には参加していませんが、参加は歓迎とのことですので、興味をお持ちの方は学会事務局までお申し出



写真1  
「超伝導磁気浮上列車」湿度の高い日は白煙も多くて迫力満点？



写真2  
「ダイヤモンド水カッター」工業用ダイヤモンドで氷を融かし切り、ダイヤモンドの熱伝導率の高さを実感する。



写真3  
「プラズマボール」を触る参加者。



写真4  
会場を背景にスタッフ一同、お疲れさまでした。

ださい。

今回の出展にあたり、豊田工業高等専門学校校長高井吉明先生、名古屋大学大野哲靖先生はじめ、実行スタッフの先生方、学生の皆様には、準備段階から当日の運営にいたるまで大変お世話になりました。また展示物については、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所、名古屋大学、大阪大学の各位よりご提供いただきました。ご協力に感謝いたします。福島事故以後の科学技術に対する国民の意識の大きな変革の流れの中で、プラズマ・核融合分野を取りまく環境も少なからぬ影響を受けつつありますが、広報委

員会では、これからも広く一般に分野への理解を深めていただき、将来へ向けて人材を育てていけるよう、活動の充実を図っていきたいと考えています。今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### 参考文献

- [1] プラズマ・核融合学会誌 Vol. 85, 140 (2009).
- [2] プラズマ・核融合学会誌 Vol. 85, 805 (2009).
- [3] プラズマ・核融合学会誌 Vol. 88, 206 (2012).

(広報委員会 水口直紀)